



岸和田市立太田小学校 校長室だより

「日日の善行」(ひびのぜんこう)

めざす学校像 だれもが主役になれる学校



校長
山下善久

令和2年9月1日

「災害への備え」

9月を迎えました。学校から配布されるプリントのあいさつ文には「初秋の候」という言葉が使われ始めておりますが、実際はまだまだ暑い日が続いており、秋の到来はしばらく先のように思われます。引き続き本校では、熱中症と新型コロナウイルス感染症の予防に注意して、教育活動を進めてまいりますので、保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、本日9月1日は「防災の日」です。これは台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして、1960年(昭和35年)に内閣の閣議了解により制定されました。また、1982年からは、9月1日の「防災の日」を含む1週間(8月30日から9月5日まで)が「防災週間」と定められています。

9月1日という日付の由来は、1923年(大正12年)9月1日に発生して、10万人以上の死者・行方不明者を出した「関東大震災」です。また、気象庁の「気象統計情報」によりますと、台風は8月から9月にかけて、日本に接近・上陸することが多く、「防災の日」が制定された前年の1959年9月には、5,000人を超える死者・行方不明者を出した「伊勢湾台風」が襲来しています。このことから、この時期は防災について考えるいい機会なのだと思います。

皆様もご存じのように、地震や台風などの自然災害の発生を人間の力で止めることはできません。しかし、日頃から災害に対して、様々な防災対策を行うことで、災害の被害を減らすこと、いわゆる「減災」をめざすことは可能です。防災対策には「自助：自分(家族)の命は自分(家族)で守る」「共助：近所の人たちと助け合う」「公助：国や自治体、防災機関などによる救助・災害支援活動」の3つの要素があります。

しかし、大規模な災害の発生直後には「公助」による住民への迅速な援助は期待できません。効果的な公助の展開には発災後1週間はかかる可能性があるため、行動の基本は「自助」「共助」を中心に考えることが必要となります。「自助」として事前に準備できることは、①家族で防災会議をして、避難場所や安否確認をする連絡方法など決める。②家具の転倒防止など、家の中の安全対策を行う。③非常持ち出し品を用意する。などが考えられます。

そして「共助」を円滑に進めるための平素の取組みとしては、①日頃からの近所の助け合い。②自主防災活動に参加する。などが考えられます。学校では、様々な災害を想定して、避難訓練を実施して、子どもたちに自らの命を守るために必要な知識を身に付けさせるとともに、近所の人たちとの日頃の交流がいかに大切かを啓発してまいります。本来であれば地域行事への参加も積極的に勧めたいのですが、コロナ禍により地域行事の実施が難しい状況ですので、子どもたちには登校時に、近所の人に「おはようございます。」としっかり挨拶して、顔を覚えてもらうことを指導してまいります。

